



中野本郷

令和5年度 10月号
令和5年10月2日
中野区立中野本郷小学校
校長 福山 広伸
児童数 322名

郷(さと)の魂

副校長

「郷の魂」石碑

暑く、長い夏が終わり、やっと秋を迎える気候となりました。朝晩は涼しく、秋空が高く澄み渡り、爽やかな過ごしやすい季節です。読書、スポーツ、何をするにも体を動かしやすく、出掛けやすく、食欲もわいてきます。グリーンガーデンで5年生が育てている米は、稲穂が黄金色に輝いています。

今月は、一年の中間となる節目の月で、6日(金)に前期終業式、10日(火)に後期始業式があります。終業式には児童に通知表が渡されます。この半年間で成長したことを振り返り、後期に向けて、児童がまたがんばろう、やってみよう、努力しようとする前向きな気持ちをもてるよう、保護者の方にはお子様のよさを認め、褒めたり、励ましたりして、ご家庭での温かな言葉掛けをお願いいたします。

私の故郷は、岡山県で、備前市という所に旧閑谷(しずたに)学校があります。旧閑谷学校は、1670年に岡山藩主池田光政によって創建された岡山藩直営の世界最古の庶民教育のための学校で、2015年に日本遺産に認定されました。この閑谷学校の前身は、1641年岡山城下の藩校だった花畠教場で、陽明学を講じた日本で最古の藩校でした。江戸時代の陽明学者の中江藤樹の教えは、門下生によって全国に広められました。花畠教場もその教えの影響を受けています。

当時の中江藤樹の教えの中に、思いやりのある言葉、思いやる心があります。現代の教育でも学校生活を送る中で、大切にしていることです。日本では江戸時代から子どもの集団生活の中で重要な事として引き継がれてきたのでしょう。人に思いやりのある言葉をかける、人の気持ちを理解しようと思ひやる、私も大切なことだと考えます。

それでは、本校ではどのようなことが大切にされてきたのでしょうか。中野本郷小学校には「郷(さと)の魂」の石碑が体育館の側に立っています。「郷」とは、本郷村、本郷小学校、故郷の「郷」。「魂」は精神・気力、きもち、こころのことだと石碑の横の立札に書いてあります。何事も最後までやりぬく本郷の「郷(さと)」の精神(魂)が本郷の精神と続きます。卒業生の思い出作文を読むと、開校当時から『郷の魂』を言われ続けたそうです。また、1978年(昭和53年)開校50周年記念行事で、盆踊りや植樹に加えて「郷の魂」の石碑の除幕式を行っています。50周年記念誌には、--「郷」とは、「あらゆる夢や抱負を抱いた若い力が、強く正しく限りなく伸びる不滅の精神」のことである。--とあります。地域・保護者の方、教員がこの「郷の魂」を大切に、20年後、30年後の未来を担う子どもたちに受け継がれていくことを願った事がうかがえます。

社会の状況がめまぐるしく変化する時代を生きる今の子どもたちにとっても、夢をもち、抱負を抱いて自分の力を存分に伸ばしてほしいと願います。そのために、私たち大人は、子どもたちが何を学び、何ができるようになったか、認め、励まし、褒めることで子どもの自尊感情を高め、学びに向かう力を育みたいものです。保護者・地域の皆様、後期からも中野本郷小学校の子どもたちが伸び続けるよう、引き続き学校とともにご協力をお願いいたします。



10月の生活目標 元気に運動しよう

ようやく暑さが落ち着き、朝晩を中心に涼しく感じられるようになってきました。

今月は、元気に運動することを重点的に指導していきます。運動をすることで、体力や筋力をつけるだけでなく、適度に疲れることで眠りやすくなります。早く寝ることができれば、早く起きることができるようになり、朝ごはんもしっかり食べられるようになります。また、太陽の光を浴びることは近視の予防にもなります。

まずは、休み時間に積極的に外で遊ぶよう声掛けをしていきます。ご家庭でも、体を動かすことの大切さや楽しさについてお話させていただきますようお願いいたします。

(生活指導委員会)